

## シラバス参照

科目名	産業経済論 I
配当年次	1年次
開講期間	前期
単位数	2
担当教員	小林 哲也(コバヤシ テツヤ)
期間・曜日・時限・教室	前期 水曜日 2時限 __

※	
授業の目的・目標	<p>【講義の概要】 本講では、産業構造の基本的な考え方をおさえながら、その発展と方向性を解説する。また、重要な産業の1つである製造業を取り上げ、その特徴や現状、方向性、さらには課題を探ることで、経済における産業のあり方を理解する。授業に際しては担当教員の過去の実務経験を背景とした内容も展開する。</p> <p>【講義の目的】 本講を通じて産業経済の基本的な考え方についての知識を理解できるようにする。</p> <p>【修得できる力】 知識・理解 【講義の到達目標】 本講の到達目標は、産業経済における基本的な知識の修得及び、それをもとに自ら考えることのできる分析能力の修得にある。</p>
準備学習等の指示	<p>事前に講義スケジュールに記載したキーワードを調べ、内容を理解しておくこと。配布資料を事前に必ず読み予習しておくこと。授業終了後は必ず内容を振り返り、要点をまとめておくこと。確認のための小テストを実施するので必ず受けること。標準的な事前・事後学習時間は3時間である。解らないことがあった場合には、必ず担当教員に質問すること。質問等の機能をwebclass上に設定する。担当教員からフィードバックします。</p>
講義スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション 産業経済の持つ重要性を考えることができる。</li> <li>2. 産業の概念と分類 産業分類とは何かを理解できる。</li> <li>3. 経済発展と産業構造の変化 ペティ・クラークの法則と産業高度化の理由を考えることができる。</li> <li>4. 戦後日本の産業構造 戦後日本産業の復興の背景を理解できる。</li> <li>5. 高度経済成長期の終焉と産業構造の転換 高度経済成長期の終焉と日本の産業構造の転換の背景を考えることができる。</li> <li>6. アメリカの経済発展 互換性部品がアメリカで発達した背景を考えることができる。</li> <li>7. 大量生産方式の誕生 分業のコンセプトを理解できる。</li> <li>8. 科学的管理法 科学的管理法の基本的な方法を理解できる。</li> <li>9. 大量生産方式の完成 フォード生産方式が誕生した理由を考えることができる。</li> <li>10. アメリカ自動車産業の発展 GMの成長の理由を理解できる。</li> <li>11. 産業のグローバル化 産業のグローバル化の理由を考えることができる。</li> <li>12. 日本自動車産業の発展 日本自動車産業の発展の背景を考えることができる。</li> <li>13. 情報通信産業の発展 ICT産業発展の背景を考えることができる。</li> <li>14. アメリカ金融危機と産業への影響 金融危機がグローバル経済と産業に与えた影響を理解できる。</li> <li>15. 経済のグローバル化 経済のグローバル化とその背景を理解できる。</li> </ol>
教科書	特に指定しない
参考文献	必要に応じて指示する。
授業の方法	スケジュールに従い講義方式によって授業を進める。
成績評価方法	授業への参加状況：30%、期末試験：70%にて評価を行う。
オフィスアワー	月曜日5時限を予定。

居室	12号館2階 207 小林(哲)研究室
ホームページ	
その他特記事項	新型コロナウイルス感染症対策のため、授業方法を変更する可能性がある。授業方法等については、webclassを通じて連絡するので、事前に必ず確認しておくこと。
添付ファイル	